

ホノルル市訪問報告書

12月6日（木曜日）

◆ホノルル市議会と懇談

10:00~12:00
ホノルル市庁舎

アーネスト・マーティン議長との再会に旧交を温めるとともに、「今後とも両市議会が交流の糸を紡いでいきましょう」との想いを込め、長岡市議会として「栃尾の手まり」を贈りました。



その後、マーティン議長及びジョーイ・マナハン議員と、両市議会の今後の交流の進め方などについて意見交換。主な内容は次のとおりです。

- (1) マーティン議長から「それぞれの市役所で相手の市の品を陳列する展示交流ができればよい。また、ホノルル市が『長岡の日』を、長岡市が『ホノルルの日』または『ハワイの日』を制定し、フラダンスや酒などの文化交流、商工会議所を介したビジネスツアーを行い、両市民の交流を深めてはどうか。そして、その親善ツアーに議員が同行しては」との積極的な提案がありました。

なお、この提案は、市議会同士の交流の域を越える内容のため、理事者と相談したいと思います。

- (2) 私からは「相互交流は有意義だが、大勢で訪問し合うことは難しい面もあるため、少なくとも議長レベルでお互いの平和式典に交互に参列してはどうか」と提案。マーティン議長の同意を得ました。

平成26年に交わした「交流に関する覚書」を踏まえ、今後の両市議会の交流について、建設的な話し合いができたことは大きな成果でした。



◆在ホノルル日本国総領事館を訪問 [14 : 00~14 : 40]

磯田市長とともに伊藤康一総領事を訪ね、これまでのホノルル市との交流に対する支援へのお礼を述べ、今後の両市の交流について懇談しました。

このたび、ホノルルのイオラニススポーツウェアが栃尾の山信織物(株)の生地を使って製作したアロハシャツの販売促進など、経済分野での新たな交流の展開について、伊藤総領事は「両市の幅広い交流を支援したい」と語りました。

私はマーティン議長から提案のあった「長岡の日」「ホノルルの日」の制定について報告。総領事から「ハワイでは『〇〇の日』というものに馴染みがある。行事を通じ、記念日の内容を認知してもらうことは素晴らしいこと」と評価をいただきました。



◆学生平和交流プログラム参加の学生と夕食会

[17 : 30~19 : 00
トニーローマワイキキ]

磯田市長とともに、「第8回学生平和交流プログラム in ホノルル」に参加している長岡出身・在住の大学生2名、高校生6名と懇談しました。

学生たちはホノルル滞在中、真珠湾追悼記念式典に出席するほか、平和関連施設の訪問やハワイ大学の学生と平和について意見交換を行います。

次代を担う学生たちが、このたびの訪問で学び、理解を深めた戦争の歴史と新たにした平和への想いを、世界の恒久平和の実現に向けて広く大切に伝えていってほしいと願うものです。



12月7日（金曜日）

◆第77周年 真珠湾追悼記念式典に出席

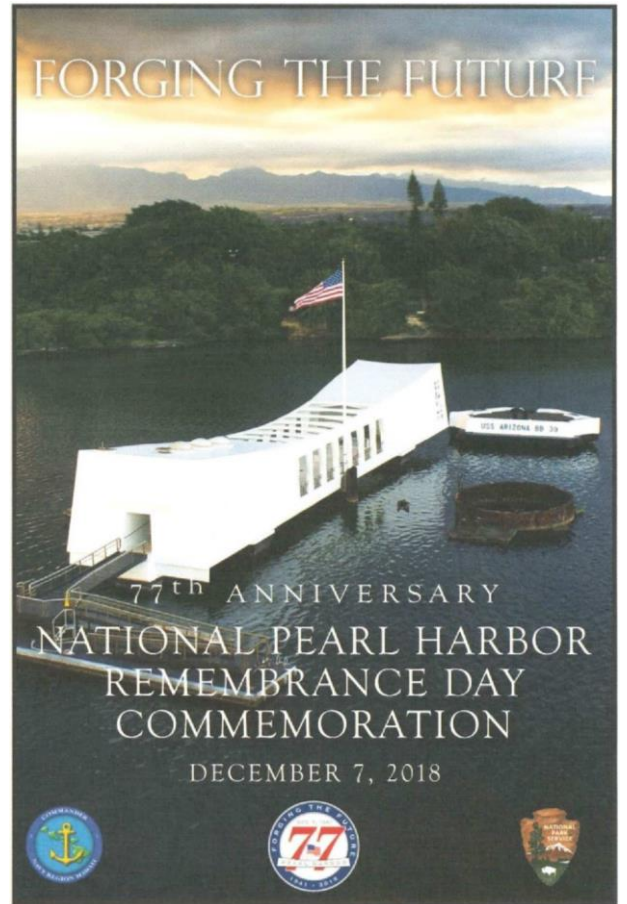
〔 7:50~11:00
パールハーバー ビジターセンター 〕

アメリカ海軍からの招待を受け、パールハーバービジターセンターの公園で開催された追悼記念式典に出席しました。式典には約3,000人が参列。真珠湾攻撃が始まった時刻に黙とうが捧げられました。

今年のテーマは「未来をつくる」。真珠湾攻撃により犠牲となったアメリカ軍兵士や退役軍人を称え敬意を表すとともに、未来に向けて平和を守っていく強い決意を感じました。

長岡市は日本で唯一招待された自治体であり、大切な来賓として紹介されました。これは、戦争の痛みを共に知る両市が姉妹都市として平和交流を重ね、相互理解を深めてきたことが礎にあると重く受け止めると同時に、長岡市にとっても大切な式典であると改めて実感しました。

また、真珠湾攻撃を経験した生存兵士が年々減っていく現実、戦争の記憶と歴史を風化させることなく、未来へ語り継いでいく重要性を再認識させるものです。



式典後、パールハーバービジターセンターにあるメモリアルミュージアムを見学。館内には真珠湾攻撃に関する映像や多数の記録資料があり、太平洋戦争の悲惨な歴史を目の当たりにしました。山本五十六が最後まで戦争に反対していたことや当時の日本の状況、真珠湾攻撃に至った経緯なども詳細に展示解説されており、パネルを見入る長岡からの学生たちの姿が印象的でした。



◆ホノルル市長と懇談

〔 15 : 00~15 : 50
ホノルル市庁舎 〕

磯田市長とともにカーク・コードウェル市長を訪ね、長岡市議会として「山下清の『長岡の花火』のタペストリー」を贈りました。



コードウェル市長から「長岡市ほど結びつきが強く、新たなことに挑戦しながら一生懸命に交流していただいている姉妹都市はありません」と感謝の言葉。

私は「長岡花火に込められた、慰霊・復興・平和という3つの想いを世界平和に向けるには、両市の交流がその一翼を担う。末永く交流を進めていきたい」と希望を述べました。

懇談の場には、イオラニススポーツウェアのロイド・カワカミ社長も同席。同社が山信織物（株）の生地を使って製作したアロハシャツの披露がありました。両社の結びつきによる経済交流の実現について、コードウェル市長は「とてもうれしいこと。両市の交流でかかった架け橋を、これからもっと強固なものにしていきたい」と喜びと抱負を語りました。



最高の技術を持つ会社同士が結びついて出来た新たな製品の誕生は、栃尾の織物技術の評価をさらに高めるとともに、両市の姉妹都市交流の大きな成果の一つといえるでしょう。今後、経済分野での交流の拡大が新たなビジネスの展開につながることを期待します。

12月8日(土曜日)

◆平和関連施設等を訪問 [9:00~11:45]

(1) 国立太平洋記念墓地(パンチボール)

緑の芝が一面に敷き詰められた広大な敷地に、第二次世界大戦などの戦争で亡くなった3万人を超えるアメリカ軍兵士らが眠る記念墓地。



雨上がりの静寂が厳粛な地を包む中、記念碑に長岡市議会として花束をたむけ、祈りを捧げました。

正面の女神像へと続く長い階段の両側には、自由を開放するために戦死した兵士の名前が刻まれた石壁が並び、また、女神像の奥の「ホノルルメモリアル」と

呼ばれる歴史施設には、アメリカ軍のこれまでの戦争の軌跡を伝える壁画が掲げられていました。



(2) 真珠湾フォード島

戦後70年の時を越え、平成27年8月15日(終戦記念日)に真珠湾で長岡花火を打ち上げたことを記録するため、アリゾナ記念館(※)を間近に臨む島のほとりに建立された記念碑に、長岡市議会として献花しました。

碑には、「戦争で亡くなった方々の慰霊

これまでの70年間の平和に感謝

そして、未来の平和への祈りを込めて」と記されています。

70周年事業の記念碑の前に立ち、長岡花火の打ち上げが平和交流を重ね、強い絆で結ばれた両市の友好の証しと平和の象徴であることに想いを深くしました。

※ 旧日本軍の真珠湾攻撃で沈没した戦艦アリゾナの上に建つ記念館



(3) 戦艦ミズーリ記念館

平成4年に退役した戦艦ミズーリ。今は真珠湾で、日米開戦の象徴である戦艦アリゾナと向かい合う位置に終戦の象徴として係留され、記念館として公開されています。

昭和20年、第二次世界大戦終結の降伏文書の調印式が行われた甲板では、その時の様子を写真と資料で克明に紹介。艦内には悲惨な戦争の歴史を伝える映像や多数の記録資料のほか、長岡市が平成28年に贈った「山下清の『長岡の花火』のリトグラフ」も展示されていました。

全長270m、高さ66mの威容を誇る船体に、旧日本軍の特攻隊機が突入した衝突跡を歴史の証人として見ることもできました。



以上3か所の訪問は、真珠湾追悼記念式典への出席とパールハーバービジターセンターのメモリアルミュージアムの見学とともに、70年前の戦争の事実と向き合い、平和の尊さについて改めて考え、平和への誓いを新たにするものでした。

長岡・ホノルル両市議会 5年間の交流について

1. ホノルル市議会との覚書調印の経緯

ホノルル市と長岡市は、平成19年より交流が始まり、平成24年3月に姉妹都市となった。かつて戦争で共に傷を負った経験から平和交流を軸に、子どもたちの英語交流、スポーツ交流、市民訪問団の訪問等の活発な交流を重ねる中で、市議会同士も交流を深めていこうという機運が高まり、平成26年3月に覚書の調印に至った。

覚書の調印に際しては、ホノルル市議会議長のアーネスト・マーティン氏（当時）と協議を重ね、両市議会は「相互理解と友好関係の発展を図ることにより、長岡市とホノルル市のあらゆる分野にわたる交流の促進、発展に寄与する」と条文に定めた。以来、5年間にわたり相互に訪問し合いながら、継続的に交流を深め、両市の伸長発展に貢献している。



日本国長岡市議会とアメリカ合衆国ホノルル市議会による交流に関する覚書

1. 長岡市議会とホノルル市議会（以下「双方」とする。）は、相互理解と友好関係の発展を図ることにより、長岡市とホノルル市のあらゆる分野にわたる交流の促進、発展に寄与するため、以下のとおり合意した。
2. 双方は、相互の歴史を学び、平和を尊び、これからの日米の友好関係がさらに確固たるものになるよう相互交流を行うことにより、世界の恒久平和に寄与する。
3. 双方は、相互理解を深めることにより、政治、経済、文化、教育、福祉、スポーツ等の分野における両市の交流の促進、発展に努める。
4. 交流に関する細部については、双方が別途協議する。

覚書は、日本語と英語で作成し、それぞれ同等の効力を持つ。双方は、それぞれ覚書を一部ずつ持ち、署名した日から効力を持つ。

2014年（平成26年） 3月 7日

丸山 勝 総

長岡市議会
議長

丸 山 勝 総

ホノルル市議会
議長

アーネスト Y. マーティン

2. 覚書調印の交流内容

2013年

○8/2「マーティン議長が平和交流のため長岡を訪問」

- ・長岡市議会議員と昼食会

参加議員：丸山勝総（議長）、高野正義（副議長）、酒井正春、関 正史、永井亮一、笠井則雄、藤井達徳



2014年

○3/6-3/11「両市議会の交流に関する覚書を調印するため、ホノルルを訪問」

訪問議員：丸山勝総（議長）、関正史、永井亮一、諸橋虎雄、佐藤伸広、中村耕一、大平美恵子

- ・両市議会議員による覚書の調印式

ホノルル市議会議員3名（キャロル・フクナガ議員、ロン・メノア議員、アン・コバヤシ議員）と長岡市議会議員6名が立会人となった。

- ・ホノルル市役所（市議会庁舎）視察

議長室にてマーティン議長と懇談した。ホノルル市議会からキャロル・フクナガ議員が同席した。

- ・マーティン議長主催の両市議会議員・交流の夕べ

マーティン議長夫妻のほか、キャロル・フクナガ議員、アンダーソン議員夫妻等が出席。それぞれの議会制度の違いなど、活発な意見交換が行われた。



2015年

○2/14-2/15「マーティン議長が雪しか祭り、国際交流のつどい参加のため長岡を訪問」

- ・長岡市議会議員と昼食会

参加議員：丸山勝総（議長）、高野正義（副議長）、酒井正春、関 正史、永井亮一、大平美恵子、笠井則雄、諸橋虎雄、中村耕一、佐藤伸広



- ・マーティン議長による議場スピーチ

長岡市議会から全議員が出席し、議場でマーティン議長のスピーチを拝聴した。マーティン議長からは、ホノルルと長岡の交流への思い、とりわけホノルルフェスティバルでの長岡花火打ち上げについて感謝の意が述べられた。



○8/13－8/17「戦後 70 年長岡ホノルル平和交流記念事業に合わせ、ホノルルを訪問」

訪問議員：関正史（議長）、小熊正志、五井文雄、酒井正春、高野正義、松井一男、
杵渕俊久

- ・ホノルル市議会議長表敬訪問

関議長がマーティン議長を表敬訪問した。

- ・ホノルル市議会議員との意見交換

ホノルル市議会の仕組みや政策について質問しながら、意見交換を行った。ホノルル市側はマーティン議長のほか、アン・コバヤシ議員、キャロル・フクナガ議員、ロン・メノア議員、トレバー・オザワ議員、ブランドン・エレファンテ議員が参加した。



- ・市内視察

マーティン議長からの提案により、マーティン議長の選挙区でもあるノースショア（オアフ島北部の海岸地域）にあるワイメアバレーとハレイワの町を視察した。マーティン議長がバスに同乗し説明を行った。

翌日の市内視察でも、マーティン議長をはじめホノルルの企業人等と懇談した。

- ・太平洋戦争終結 70 周年追悼式典出席

関議長がマーティン議長の代理で出席されたキャロル・フクナガ議員とともに花輪をアリゾナ・マーカ―前に捧げた。

- ・平和友好記念式典出席

追悼式典と同じ会場で行われた平和友好記念式典に出席した。マーティン議長やホノルル市議会のオザワ議員家族、ハワイ州選出国会議員のマーク・タカイ氏の姿もあり、多くの方々と親睦を深める良い機会となった。



2016年

○3/11－3/15「錦鯉贈呈式及びホノルルフェスティバル出席のため、ホノルルを訪問」

訪問議員：関正史（議長）

- ・マーティン議長との懇談

市政の話のほか、それぞれの地元の話や錦鯉の話などをして、
関議長とマーティン議長の親睦を深める良い機会となった。

- ・錦鯉贈呈式出席

長岡市の魚であり平和の象徴ともいわれる錦鯉 25 匹を
ホノルル市に寄贈した。贈呈式にはマーティン議長夫妻も参加した。

- ・ホノルルフェスティバル「グランドパレード」「長岡花火」観覧
マーティン議長夫妻と観覧した。



2017年

○12/6－12/10「真珠湾追悼式典参列のため、ホノルルを訪問」

訪問議員：丸山勝総（議長）

- ・ホノルル市議会訪問

新しく議長になられたロン・メノア議長（当時）のほか、覚書を締結した際に立ち会
いをされた、キャロル・フクナガ議員、アン・コバヤシ議員も同席した。



2018年

○8/2「パイン副議長が平和交流のため長岡を訪問」

- ・長岡市議会議員と懇談会

参加議員：丸山勝総（議長）、古川原直人（副議長）、丸山広司、山田省吾、笠井則雄、
加藤一康、中村耕一

平和交流、スポーツ交流を始めとした両市の交流の展望等について懇談を行った。その後、パイン副議長より長岡空襲殉難者への献花を行った。



○12/6－12/10「真珠湾追悼式典参列のため、ホノルルを訪問」

訪問議員：丸山勝総（議長）、丸山広司、長谷川一作、広井晃、山田省吾、中村耕一
・ホノルル市議会懇談

マーティン議長及びジョーイ・マナハン議員と、両市議会の今後の交流の進め方などについて意見交換を行った。



3. 5年間の交流の成果と今後の展望

2014年の覚書調印後、長岡市議会とホノルル市議会は、相互に訪問し合うことで顔の見える関係を築いてきた。土地は違えど、議員としての熱い思い、自分の住むまちを愛する心は共通したものであり、定期的な交流の中でホノルル市議会との親睦を深められたことは、大変有意義であった。

戦争の痛みを共に知る両市が、姉妹都市として平和交流を土台に幅広く交流を深めていくことは、世界に向けて大きなメッセージとなることから、8月に長岡で行われる平和祈念式典、12月にホノルルで行われる真珠湾追悼記念式典に互いに市民の代表として出席し、平和への誓いを新たにすることを今後の交流の軸としたい。

また、理事者と思いを共有し、「オール長岡市」「オールホノルル市」として交流していくことが重要である。長岡市とホノルル市の姉妹都市としての交流は、その内容が子どもたちの交流からビジネス・教育交流にも拡大している。長岡市議会はその未来ある事業を支援し、長岡ホノルル両市民の福祉向上に繋げていきたいと考えるものである。